

西都原古墳群最後の前方後円墳

西都原202号墳（姫塚）

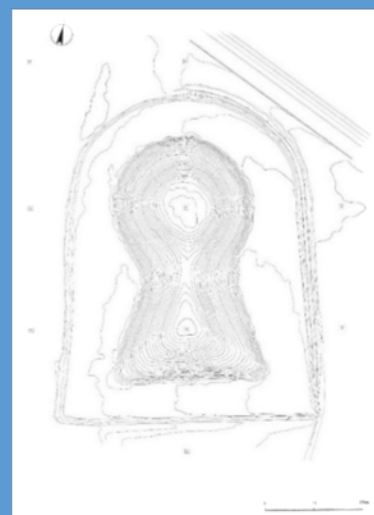
202号墳は墳長50mを超える前方後円墳で、盾形の周堀が廻る。大正期の調査では、鉄刀や刀子、鉄鏃、須恵器などが出土している。

2008（平成20）年から2010（平成22）年と2012（平成24）年に行われた平成の調査では、大正期の調査の検証と保存整備に伴う墳丘形状確認が行われた。

その結果、調査前の現況で墳長約52m、後円部径約28m、前方部幅約30mであった古墳の規模が、墳長57.3m、後円部径34.4m、前方部前端幅41.5mと判明した。さらに、前方部・後円部とも二段築成で、葺石は持たないこともわかった。

後円部墳頂部の調査では、中央に2基の墓壇が重なって確認され、木棺直葬と推定されたが前後関係は不明であった。須恵器、鉄鏃多数、水晶製切子玉・勾玉・ガラス小玉、金銅張耳環などが出土した。

大正期と今回の調査から6世紀後半頃の築造と考えられ、西都原はもとより宮崎県内においても最終段階の前方後円墳であることが判明した。



202号墳
墳丘測量図



202号墳大正坑発掘状況



202号墳発掘状況



202号墳整備状況